

令和6年度 学校経営計画に対する評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
1 ICTの効果的な活用や様々な学習形態を工夫することで、主体的・対話的で深い学びを実現し、論理的思考力、批判的思考力及び課題発見・解決能力を育成する。	① ICT機器によるGoogleclassroom、ロイロノートといったアプリケーションを積極的に活用し、効果的な使い方を研究し、授業改善を実践する。	教務課 各教科	研修や授業をとおして、個々の生徒の学習状況に応じたICT活用指導力が昨年度よりも向上したと考える教員の割合が83%であった。今年度も工夫を重ね、より一層ICT活用指導力を高めて、生徒の学びの質を高め、資質・能力を育成していく必要がある。	【満足度指標】(生徒) ICT機器によるGoogleclassroom、ロイロノートといったアプリケーションの活用により、学習効果が高まった。	ICT機器によるGoogleclassroom、ロイロノートの活用により、学習効果が高まった(aよく+bやや)と感じている生徒の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	② グループワークやペアワークなどの授業形態を積極的に取り入れ、生徒の対話の場面を作り、教師による講義中心型の授業からの脱却を図る。	教務課 各教科	日々の授業において、教師は従来の教師による講義中心型の授業を展開しがちである。学習形態を工夫し、生徒の対話の場を多く設定し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指していく必要がある。そのためには、互いに授業を見合って、教師同士で学び合い、情報交換の場を増やす努力が求められる。	【努力指標】(教員) グループワークやペアワークなどの授業形態を取り入れ、生徒の対話の場を多くし、教師による講義中心型の授業からの脱却を図ることができた。	日々の授業において、グループワークやペアワークなどの授業形態を取り入れ、生徒の対話の場面場を(a多く+b時々)設定している割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	③ 授業において、生徒が自ら課題を見つける活動を取り入れ、教師と生徒及び生徒同士が意見交換する場を積極的に設けることで、論理的思考力や批判的思考力を育成する。	教務課 各教科	日々の授業において、論理的に答えさせる質問をし、生徒が教師や生徒同士と意見交換する場面を設定したという教師は昨年度は71%に向上した。生徒の論理的思考力や批判的思考力の育成のためには教師と生徒及び生徒同士の意見交換をする場をさらに多く設定していく必要がある。	【努力指標】(教員) 授業において、生徒が自ら課題を見つける活動を取り入れ、教師と生徒及び生徒同士が意見交換する場面を設けることで、論理的思考力や批判的思考力を育成を図ることができた。	日々の授業において、生徒が自ら課題を見つける活動を取り入れ、教師と生徒及び生徒同士が意見交換する場面を(a多く+b時々)設定している割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
2 個別面談の充実、探究活動を主とする学習活動、さらにはデジタル・理数分野への理解を深める教育活動を積極的に行い、生徒一人ひとりの可能性を引き出し、早期から進路調べやキャリア教育を積極的に行うことで、進路実現に向けての意欲と主体性を育む。	①	進路指導課 学年 教科	生徒は、進学後や社会に出てからの自分の姿をイメージする力が弱く、今知っている範囲内で考え、進路選択の幅を狭めている。面談や進路学習、様々な進路の行事を通して、自己の可能性を広げながら進路を考える機会を設ける必要がある。	【満足度指標】(生徒) 面談や進路学習、学内外で実施される進路の行事を通して、生徒が広い視野で自己の進路を考え、可能性を広げながら進路選択を行っている。	面談や進路学習、進路の行事を通して、自らの進路選択に関する知識を十分に得ることができた(aよく+bやや)とする生徒の割合が、 A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 75%以上	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	②	探究推進室	総合的な探究の時間において、1年生では「野々市市PR動画作成」、2年生では「Meirin Glocal Project」、3年生では「志望理由書作成」を中心に据えた取り組みを行ってきたが、形骸化されている活動も多く、3年間一貫性のある指導体系を構築するために抜本的な改革が必要である。	【満足度指標】(生徒) 総合的な探究の時間を始めとする様々な探究的な活動を通して、生徒が課題を発見し、解決策を模索することで、自らの興味関心や適性を自覚し、将来の進路に関してより明確な目標を持つ。	(1・2年生)総合的な探究の時間を始めとする様々な探究的な活動を通して、社会問題により関心が高まり、卒業後の学びたい学問分野・領域等(将来やりたい仕事等)が年度当初に比べ、より明確になった(aよく+bやや)と感じている生徒の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に生徒アンケートにより評価する。
	③	探究推進室	生徒は、数理・データサイエンス・AIなどの用語に興味や関心はあるものの有用性や基礎的な知識、スキルが身につけていない状態である。	【満足度指標】(生徒) 探究的な活動の過程(課題の設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現)において、数理・データサイエンス・AIなどを適切に活用できる。	探究的な活動の過程(課題の設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現)において、数理・データサイエンス・AIなどを適切に活用できる生徒の割合が、 A 75%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	12月に学校評価にて評価する。
	④	進路指導課 学年 教科	生徒は、学びたい学問、就きたい職業など、自身の動機に基づいた進路決定ではなく、偏差値に合わせた受験校選別に流れがちである。内発的な意欲により、最後まで学力向上に努力する姿勢を育てる必要がある。	【成果指標】(生徒) 3年生:1学期末に生徒が志望した学問分野・領域等と、進学先の学問分野・領域等が一致している。	学問分野・領域等が一致している割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する
				【成果指標】(生徒) 1・2年生:学力を向上させることができた。 ※総合学力テストの国数英3教科総合の全国偏差値で比較(1年は7月と1月、2年は1年7月と2年1月)	進路を実現するため、学力を向上させることができた生徒の割合が A 65%以上 B 55%以上 C 45%以上 D 45%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	1、2年1月総合学力テストの結果で判断する。

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
3 教職員はICTを効果的に活用し、生徒の教育活動における個別最適化を図るとともに、多忙化の改善に取り組む。	① ICT教育支援サービスを活用したり、課題を精選するなどし、個別最適な学びの実現を目指す。	各学年	<p>【1年】基礎学力の定着から個に応じた学力向上のために、学習支援アプリケーション内の各教科が精選した動画や確認テスト等の学習内容を用意する。特に、週課題や朝学習の自学自習で積極的に利用する。</p> <p>【2年】朝学習、週課題等において、学習支援アプリケーションの動画・確認テスト配信などを活用する。到達度テストの結果から個々の状況に応じた学習を配信し取り組むよう指導する。</p> <p>【3年】朝学習において学習支援アプリケーションの「情報」や「到達度テスト」に連動した課題の配信を行い活用していく。また、英語に特化した学習支援アプリケーションを積極的に利用することで個々の進路実現に繋げていく。</p>	<p>【満足度指標】(生徒)</p> <p>ICT教育支援サービスを活用することや、朝学習や課題に取り組むことで、自らの学力を高めることができた。</p>	<p>ICT教育支援サービスを活用することや、朝学習や課題に取り組むことで、自らの学力を高めることができた(aよく+bやや)と考える生徒の割合が</p> <p>A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	Dの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	② 採点省力化ソフトを積極的に導入し、採点・分析・評価・返却に要していた労力を削減する。	教務課	昨年度、ほとんどの教員が採点省力化ソフトを活用し、業務の効率化に関して、ある一定の成果を得ることができた。今年度も教員全体で採点省力化ソフトを活用し、業務の効率化を図っていく必要がある。	<p>【努力指標】(教員)</p> <p>採点省力化ソフトを活用し、業務の効率化を図ることができた。</p>	<p>採点省力化ソフトを活用し業務の効率化を図ることができた(aよく+bやや)と考える教員の割合が</p> <p>A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満</p>	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	③ 業務負担の軽減や時間管理の改善などにより、職員の多忙化改善を進める。	副校長 教頭	時間外勤務が80時間を超える教職員が1ヶ月あたりの平均で3.9人、そのうち100時間を超える教職員が0.7人となり、ともに前年度よりやや減少したものの目標に届いていない。引き続き、定時退校日の徹底や教職員の意識改革を行っていきたい。	<p>【成果指標】(教員)</p> <p>時間外勤務が80時間を超える教職員が0人になる。</p>	<p>時間外勤務が80時間を超える教員の月平均の人数が</p> <p>A 0人 B 2人未満 C 3人未満 D 3人以上</p>	CまたはDの場合は、改善策を検討する。	勤務時間記録により年度末に評価する。

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
4 部活動や生徒会活動の活性化とともに、地域行事への積極的参加を通して地域貢献に努める中で、視野を広げつつチャレンジ精神やレジリエンスの涵養を図り、明るく活力ある学校づくりを推進する。	① 保護者にPTA活動等に積極的に参加してもらい、教育活動をバックアップしてもらおう。	総務課	充実した教育活動を行う上で、保護者の理解と支援は欠かすことはできない。相互理解の推進には、学校行事への参加と教師との対話が重要である。また、保護者代表であるPTA役員の方と円滑なコミュニケーションを取りながら学校・保護者が信頼しあう土台づくりを目指す。保護者がより来校しやすく、教員と話しやすい環境作りに努めたい。	【成果指標】(保護者) 多くの保護者が学校の教育方針や行事等に関心を持ち、協力・参加した。	学校行事やPTA活動で保護者が来校した、または職員とのやりとりを電話などでした回数平均が2回以上の割合が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	Dの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	② 本校の教育活動、生徒の活動の成果をホームページ上に掲載し、広く情報を発信する。	総務課	保護者・中学生・地域の方に本校や生徒の様子について知ってもらうため、連絡はもちろん、楽しく見てもらえる記事も含めたい。	【成果指標】(教員) 各課、学年等からの最新情報を集約し、速やかにホームページ上に掲載した。	ホームページ上のアクセス数が月間平均で A 40,000以上 B 35,000以上 C 30,000以上 D 30,000未満	Dの場合は、改善策を検討	年度末に評価する
	③ 部活動の加入を促し、学校全体の活性化を図ることで、生徒のチャレンジ精神の向上とレジリエンスの獲得を目指す。	生徒課	新1年生の全員入部を取り止めた状況の中で、各顧問と協力し、中途退部者防止策や生徒に対して他の部への再入部の支援体制を行う必要がある。	【成果指標】(生徒) 部活動に加入し、活発に活動した。	1,2年生の部活動の加入率が A 80%以上 B 75%以上 C 70%以上 D 70%未満	Dの場合は改善策を検討	12月に評価する。
	④ 生徒会行事、地域の行事への主体的な参加を促し、生徒一人ひとりが充実感・達成感を得られるよう推進する。	生徒課	明倫祭や生徒会行事後のアンケートでは多くの生徒が積極的に参加しているようである。地域の行事や活動にも生徒自身が主体的に参加できる場を増やし、充実感や達成感を得られるよう工夫したい。	【満足度指標】(生徒) 委員会・生徒会活動、地域の行事に主体的に参加し、充実感・達成感を得ることができた。	委員会・生徒会活動、地域の行事に主体的に参加し、充実感・達成感を得ることができた生徒(aよく+bやや)の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
5 節度ある生活習慣の確立に努め、自ら挨拶し、読書に親しみ、ボランティア活動等にも積極的に参加する心豊かな人材の育成を図る。	① 登校指導や生活指導などを通して、挨拶がしっかりできる人間の育成を図る。	生徒課 各学年	保護者による挨拶運動などにより、挨拶をする環境が生まれ、生徒は挨拶を行うようになっていくが、しっかり声を出せる生徒を育成したい。	【努力指標】(生徒) 登校時や校内で出会った人に対して、積極的にしっかり声を出して挨拶をする生徒が増える。	朝の挨拶運動などで、生徒同士や教職員、外部からの来客に対し、進んで自分からしっかり声を出し挨拶できた(aよく+bやや)生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	② 登校指導や生活指導などを通して、自ら身なりを正すことで規範意識を育成する。	生徒課 各学年	生徒の規範意識は高いものの、僅かではあるが、頭髪の加工や制服の不適切な着用で規律を守れていない生徒がいる。	【努力指標】(生徒) 規律を遵守し、自ら身なりを整える生徒が増える。	制服を意識的に正しく整えている(aよく+bやや)生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B以下の場合、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	③ 交通安全教室や街頭指導を通して、自転車の安全運転の励行を図る。	生徒課 各学年	規範意識自体は高いが、イヤホン着用や並列走行などの交通違反に対する意識が薄い。細かな指導と啓発活動を強化する必要がある。	【成果指標】(生徒) 自転車運転のルールとマナーの必要性を認識し、交通ルールを遵守する生徒が増えた。	交通ルール(自転車運転でイヤホン着用や並列走行をしない)を遵守している(aよく+bやや)生徒の割合が A 98%以上 B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	④ 学校内外のボランティア活動への積極的な参加を促すとともに、ボランティアに参加したことの達成感や地域貢献への意識を高める。	生徒課 各学年	全校で取り組んでいる校外清掃、部活動単位では昨年度から始めた新しいかたちで行う校外活動等の機会を通じ地域貢献意識を高める。	【成果指標】(生徒) ボランティア活動を通して地域貢献できていることを感じとり、積極的に活動に取り組んだ。	ボランティア活動に、積極的に参加した生徒(aよく+bやや)の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	⑤ 生徒の良好な人間関係作りを支援する。	相談室 各学年	生徒は全体的に落ち着いた生活をしているが、人と関わることが苦手だったり他者との適度な距離感がつかめなかったりする生徒が増えており、良好な人間関係を築くための手立てを必要としている。	【成果指標】(生徒) 生徒がクラスや部活動に居場所を見出し、学校生活が楽しいと感じる。	学校生活が楽しいと感じる生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	⑥ 情報の収集、共有を密に行い、困難を抱えた生徒に対して早期に対応し支援する。	相談室 生徒課 各学年	いじめ及び心的支援を必要とする生徒への対応について職員の情報共有や連携の体制は取れている。一方、長期欠席の生徒の対応については、一層の情報共有と連携を図り丁寧に取り組む必要がある。	【努力指標】(教員) 各種調査や情報交換などで、支援を必要としている生徒をしっかり把握し適切な対応をしている。	いじめや人間関係などの生徒の変化に対して、素早く察知し、対応することができたアンケートをとり、あてはまる割合が、 A 95%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	⑦ 定例清掃の活動を通して、環境美化意識を高める。	保健環境課	開校から続いた全校一斉清掃から当番制(交代制)の清掃に変更した。少人数で清掃に取り組むことにより環境美化意識の向上を目指す。	【成果指標】(生徒) 愛校心と環境美化意識を持ち清掃に取り組んでいる。	環境美化を意識し真面目に清掃に取り組んでいる生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する。
	⑧ 図書委員による図書便りや本の紹介の作成・発行などの図書案内や一斉読書による読書指導によって読書に親しむ習慣をつけるとともに、探究活動等でも図書室を利用できるようにする。	図書室	電子書籍などメディアの多様化が進み、紙媒体の本の利用は減っている。本校でも同様傾向にあるが、図書室前の企画展示などの工夫により、図書に関心を持つ生徒は一定程度いる。生徒や教員の推薦図書の紹介や展示により興味・関心を刺激し、電子媒体も含め、読書を推進させる必要がある。	【成果指標】(生徒) 1学期は新入生ガイダンス、総体総文時一斉読書、2学期は新人大会時の一斉読書で1,2年生の読書が増えた。3年生は受験用に読書した。	生徒一人あたりの年平均貸出冊数が A 5冊以上 B 3冊以上 C 2冊以上 D 2冊未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する。